# 山形のふたつのコンペ

末岡佐江子　川島 茂

山形大学・計画模型俯瞰

最近，山形で行われたふたつの公開プロポーザルコンペに高宮眞介非常勤講師（本年 3 月まで建築学科教授）が設計者として選ばれた。山形県米沢市に建設される「山形大学工学部創立 100 周年記念会館」，山形県村山市の市立図書館と交流施設を含む「村山市総合文化複合施設」で，現在，それぞれの施設の基本設計に着手している。共同設計者の 2 人が報告を行う。

## 山形大学工学部創立 100 周年記念会館

末岡佐江子

米沢市にある山形大学工学部が 2010 年に 100 周年を迎える。その記念事業として大学 OB が組織する米沢工業会が中心に，記念会館建設を企画，設計者選定のプロポーザルコンペを開催した。

工学部キャンパスの正面に位置し，明治期に建設された「旧米沢高等工業学校本館（以下，「旧米工本館」）に隣接するキャンパス正門を含む空地が計画地である。

既存正門は人と自転車と車のアクセスが混成する散漫な印象であった。それらのアクセス動線を整理するとともに，「旧米工本館」と「記念会館」というふたつのシンボルを両翼に配するよう，ふたつの施設の間にプラザ（広場）を設けた。それにより大学のアイデンティティの強化をはかり，正門入口としての「構え」をつくることが相応しいと考えた。

また，諸室の配置よりもそれぞれを「つなげるもの」=「サーキュレーション」をデザインすることに焦点をあてた。それは内部のプログラムがいかに変わっても，その繋がりの強度だけは維持できると考えたからだ。

「旧米工本館」とプラザを介して向き合う「記念会館」とは軒高を揃えるなど景観的配慮をしながらも，「明治」の建築と新たな時代を切り開く「平成」の建築としてのシンボル性を保ちながら対峙することとなる。

（すえおかさえこ・助手）

山形大学・キャンパス正面より計画をのぞむ

## 村山市総合文化複合施設

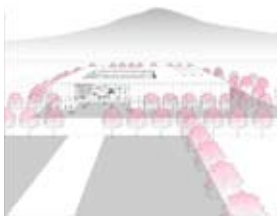
川島　茂

村山市は東京から山形新幹線で 3 時間余り揺られた先にある。その中心市街地に計画地はあるが，獅子に扮した若者が一心不乱に踊る「徳内まつり」のころを除くと，この地区が賑わいを失って久しい。中心市街地の再生を目指した整備計画が市民と行政の手でつくられつつある。その核施設が図書館と交流センターを複合した今回の計画である。市民から求められたテーマは「交流と学習によるにぎわいの創造」であった。

この場所を訪れる人々に「にぎわいの創造」の手がかりを提供すべく，建物の中心に正方形の広場を設けた。この広場を「祝祭広場」と名付け，各施設へのアクセスに利用されるよう，図書館や諸室機能は「祝祭広場」を囲い込むように配置した。また，その広場はさまざまなイベントに対応できるような仕掛けがある。このような配置，仕掛けにより建物内外のアクティビティは互いに交信し，さらに諸室や図書館を巡る吹き抜け空間を伴った回遊動線が複雑に織り込まれ，行動と視線がさまざまなシーンとして行き交うよう意図した。これは来館した人に賑わいを敏感に察知し，かつその発信者となることを促したためである。

この施設建設には多くの村山市民が注目し，都市再生を願ってやまない。村山市出身の建築家，高宮眞介への期待は大きく膨らみ，それに応えるべくすでに沢山のスタディ模型が事務所に山積みされている。竣工は平成 22 年の予定である。

（かわしましげる・非常勤講師）



村山市・計画俯瞰